**大事件は前触れなしに③**

◇「戦争はおこるわけないさ。」先の参議院選挙で、聞かれた声だった。希望・願いを打ち砕かれないために、私なりに三つの問題点を今なら上げたい。

◇「普通選挙法」が可決した十七日後に、「治安維持法」が可決。国民を喜ばす裏側で「社会のため」の名の元に、国民の監視を強める法律が今でも通過していないか？

◇「盧溝橋事件」は、一九三七年、北京郊外の夜間演習で起きた。実弾射撃を受けたことが契機に、中国軍と戦闘に突入。実弾射撃を中国軍の不法射撃と見ての行動であった。緊迫した状況が、戦争に。一一月から始まる海外派兵は火種にならないか？

◇「ノモンハン事件」は、満蒙国境をめぐる日本と外蒙古・ソビエトとの軍事衝突である。一九三九年、関東軍はソ連戦車の反撃にあい、悲惨な敗北に。その事実は知らされないままに「太平洋戦争」に。今、報道の自由は？

◇「戦争はおきない」と言えるのだろうか。大事件は前触れなしに襲ってくる。

【参考資料】家永三郎編「日本の歴史」

１９２０・８・１８